# 一般質問

## 9月9日、5名が登壇 市政を問う

議会の様子は「YouTube」で配信されています。

一般質問

### ・一次避難所の整備の予算確保について



髙田和幸

**問** 自然災害に伴う原子力災害も念頭に災害対策を進めなければなりませんが、中部電力㈱の不適切事案により再稼働は当分先送りとなる。今から当分の間は自然災害を最小化する施策や事業を優先すべきではないか

**答** 緊急性の高い箇所を事前に把握し、自然災害を最小化する施策や事業を優先すべきだと考えています。

**問** 国の補助制度を利用して生活に密着した避難所の整備を完了して欲しいと思いますがいかがか

**答** 国の防災力強化総合交付金は、修繕・改修工事は対象外です。一方で、町内会からは一次避難所の修繕要望も寄せられており、そこで令和6年度まで交付されていた「御前崎市一次避難所改修支援事業費補助金」の復活について、現在検討中です。

**問** 根本的な施設改修には多くの費用が必要ですが、町内会が負担するには限界があります。御前崎、白羽地区の町内会費に更に改修費用を区民から徴収することは難しいと思います。どの地区でも平等に一次避難所での生活ができるようにして欲しいと思いますがいかがか

**答** 一次避難所は、地域の方々が自主運営する施設であり、地域住民の一時集合、避難行動の起点となる避難所です。自宅が被災して帰宅できない住民等を一定期間滞在させる広域避難所については、市が整備をしております。

**問** 一次避難に際し、住んでいる地域により市民に格差が生じることをよしとするという考えか

**答** 一次避難所は、地域住民が自主運営している、いわゆる共助の部分です。市は行政として、まずは広域避難所をしっかりと整備することが必要だと考えています。しかし、一次避難所もできるだけ整備を進めたいと考えています。

一般質問

### ・健康寿命を延ばすための取り組みについて



阿南澄男

**問** 人生100年時代を迎え、誰もが人生の最期まで自立した生活を送りたいと願っています。しかし、介護を受けずに生活できる「健康寿命」と「平均寿命」の間には、男性で約7年、女性で約10年の差があります。病気による療養や介護を必要とする期間をいかに縮めるかが重要な課題です。

本市の状況を見ますと、自立して生活できる期間を示す「お達者年齢」は、令和5年度は男性が県内14位、女性が2位でした。また、介護認定率も13・4％と県内で最も低く、健康で元気な高齢者が多いことがわかります。一方、本市を支える40代から60代について見ると、高血圧や糖尿病の有病者・予備群は、いずれも県平均を上回っています。

このような状況の中で、若い世代に健康的な生活習慣を定着させ、健康寿命の延伸を図ることは、豊かな人生の構築や将来的な医療費・介護給付費の削減にもつながると考えます。今後、若い世代に対して、具体的な取り組みを積極的に展開していく必要があると考えますが、市長の考えを伺う

**答** 議員ご発言のとおり、健康寿命の延伸は、本市が将来にわたり活力あるまちであり続けるために、極めて重要な課題であると認識しております。高齢者の介護予防とともに、次世代に対し早期から健康的な生活習慣を定着させることが不可欠であると考えます。

本市の特定健診や問診の結果を見ますと、運動不足、塩分の過剰摂取、野菜不足など、生活習慣の乱れが、生活習慣病のリスクを高める要因となっております。このため、民間企業やプロスポーツチームなどと連携し、食生活と運動の両面から総合的にアプローチを展開しております。

市民の皆様が食生活を意識し、運動習慣を自然に身につけていただけるよう、さらなる動機づけと環境整備を引き続き推進してまいります。